

# 糖尿病は今や国民病！

わが国における糖尿病の統計として、信頼できる資料は厚生労働省が行っている国民健康・栄養調査による資料です。

この統計で「糖尿病が強く疑われる人」と「糖尿病の可能性が否定できない人」と表現されているのは「糖尿病有病者」と「糖尿病予備軍」ということです。

糖尿病が強く疑われる人

→ 糖尿病有病者

糖尿病の可能性が否定できない人

→ 糖尿病予備軍

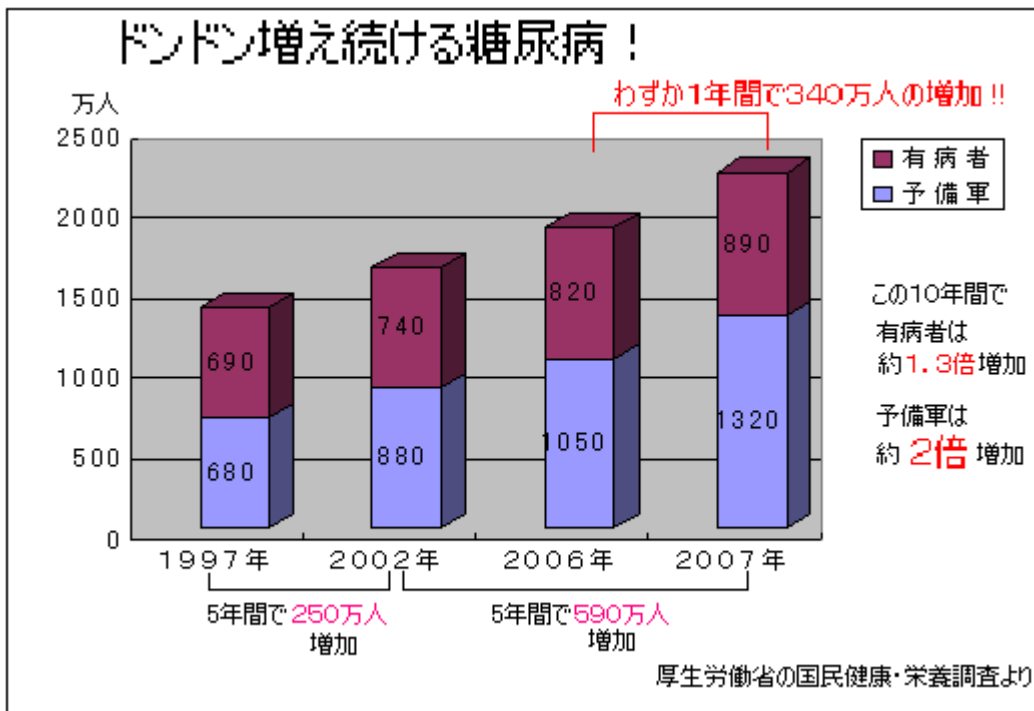
それぞれが、どれくらいの数字になっているかを表にしました。

	1997年度	2002年度	2006年度	2007年度
有病者数	690万人	740万人	820万人	890万人
予備軍数	680万人	880万人	1050万人	1320万人

厚生労働省の国民健康・栄養調査による

グラフで表すと、以下ようになります。

## ドンドン増え続ける糖尿病！



それぞれの5年間の増加数をまとめると、次のようになります。

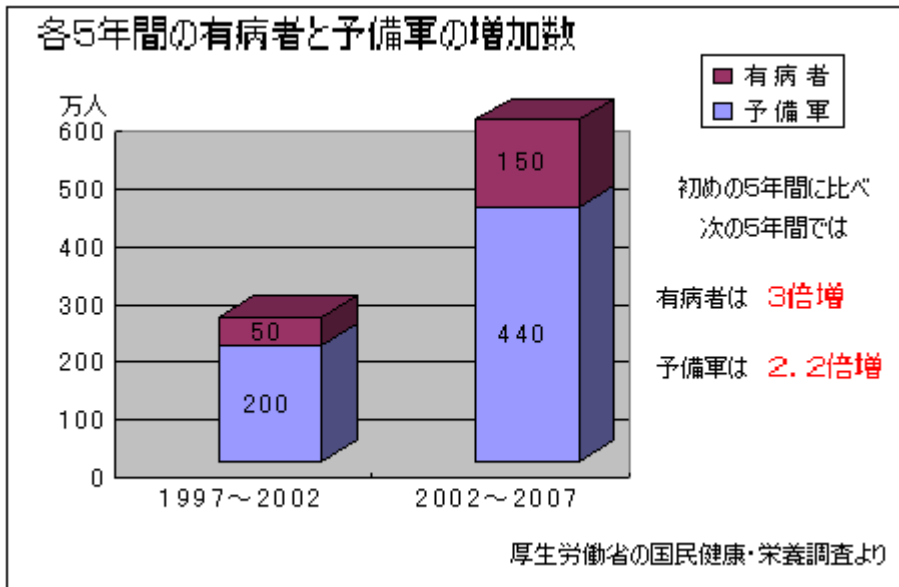
	1997～2002年度	2002～2007年度
有病者	50万人増加	150万人増加
予備軍	200万人増加	440万人増加

厚生労働省の国民健康・栄養調査による

増加数が加速しているのが判ります。

初めの5年間に比べて次の5年間では、有病者の増加数は、3倍、

予備軍の増加数は、2.2倍になっています。



それぞれの期間における 1年間平均の増加数をみてみましょう。

	1997~2002年度の 1年平均増加数	2002~2007年度の 1年平均増加数
有病者	10万人	30万人
予備軍	40万人	88万人

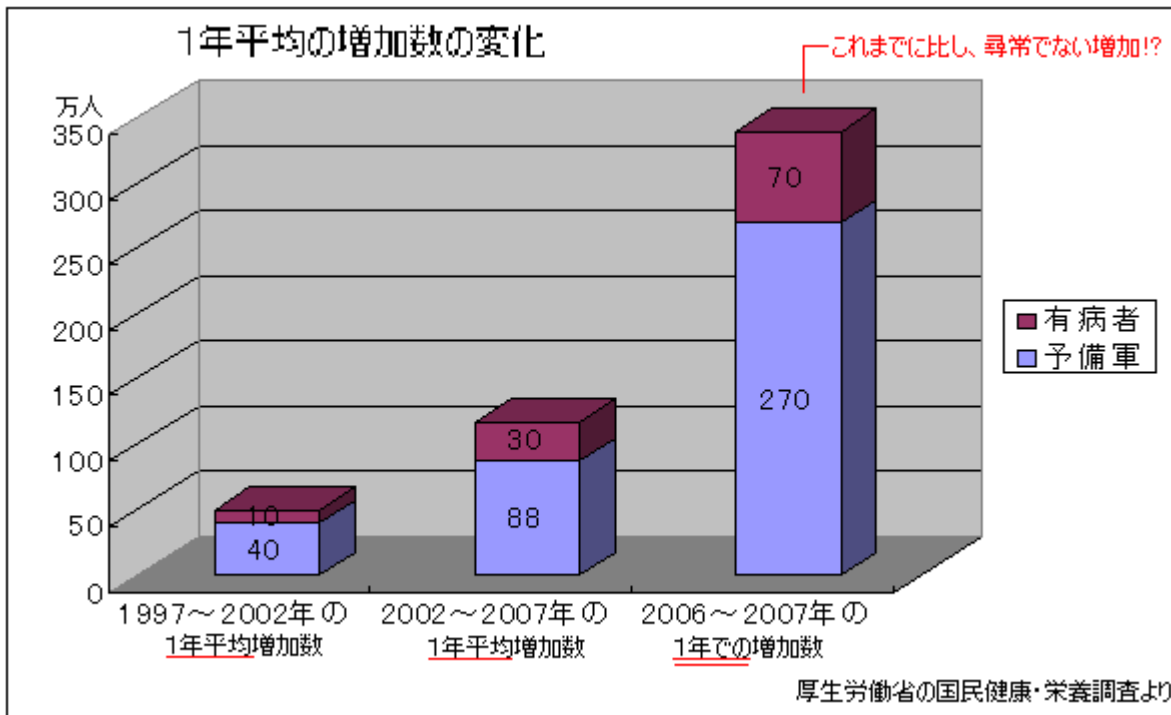
厚生労働省の国民健康・栄養調査による

ところで、2006~2007年の1年間の増加数はどうなっているか。

なんと、有病者数は、70万人の増加。

予備軍数は、270万人の増加となっています。

グラフで示しましょう。



最初の期間に比べると、有病者は7倍、予備軍は6.75倍の増え方です。

今や 成人の4.7人に1人は糖尿病の有病者か予備軍である ことになります。

「対岸の火事」と気楽に考えられている状況ではありません。

「糖尿病は悪い生活習慣を持つ人がなる特殊な病気」ではないのです。

糖尿病は、飽食の時代となった現代では、

「今の日本人が普通に生活をしていれば、普通にかかってしまう病気」

だということを、しっかり認識しないとイケません。

すなわち、もはや 糖尿病は国民病 なのです。